

教育研究業績書

令和 8 年 3 月 31 日

氏名 鮫嶋 優樹

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 「スポーツ論理力」の変容過程 -大学生女子サッカー選手への心理的サポートを通じて- (修士論文)	単著	平成29年3月	東海大学	本研究では、鈴木(2010)の作成した「スポーツ論理力評価尺度」をサッカー選手に必要な「考える力」と定義し、大学女子サッカー選手がどのような経験を経て、「考える力」を構築していく過程を明らかにすることを目的とした。「考える力」の変容には、心理面の変化が影響すると考え、心理的競技能力診断検査 DIPCA.3を用いて、対象者の選定を行なった。対象者には半構造化面接を実施し、SCATの手法を用いて質的分析を実施した。
大学運動部員におけるメンタル面の強化に関する研究	共著	令和元年12月	神奈川大学 国際経営論集 第58号, pp.110-131	本研究は、メンタル面強化に関する基礎研究として、大学運動部員に対して、メンタルトレーニングの講習会及び心理サポートを実施し、その心理的側面の影響を分析した。また、専属メンタルトレーニングコーチを帯同させた女子サッカー部のメンタル面強化実施群と講習会のみ受講した女子運動部群を比較することで、心理的側面にどのような影響を及ぼすのか分析を実施し、講習会や心理的サポートによる影響を検証した。 共著者：鮫嶋優樹、大槻茂久、後藤篤志、高妻容一 担当部分：筆頭研究者として、実験計画から論文作成まで、全てにおいて中心的に活動。
Relationships of the performance in a walking test on an unstable walkway with various motor abilities and fall experiences in active elderly people.	共著	令和元年12月	Gazzetta Medica Italiana 180(9) pp.435-440. 2021	動的な高齢者の中から転倒し易い者をスクリーニングするのは困難である。よって、従来よりも難度の高いテストの開発が必要である。本研究の目的は、高齢者169名における不安定バーを用いた歩行テストおよび各種運動能力との関係、ならびに転倒との関連を検討することであった。本テストは片脚支持時間および歩行時間との間に中程度の関係があること、転倒非経験者は転倒経験者よりもテストの成就度が優れることが明らかにされた。 共著者：杉浦宏季、野口雄慶、横谷智久、碓麻菜、鮫嶋優樹、山本銀平、Bayanduuren Boldbaatar、杉田美瑛 担当部分：共同研究につき本人担当部分の抽出不可。

<p>Relationship between logical ability and tactical understanding in women's soccer.</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年1月</p>	<p>American Journal of Applied Psychology Vol. 10(1) pp.1-6. 2022</p>	<p>集団競技において、高いパフォーマンスを発揮するためには、指導者の用いる戦術に対する選手の理解度を高めることが重要であり、それには、選手個々の競技に対する考える力が影響する。本研究では、女子サッカー選手を対象に、指導者の用いる集団戦術に対する選手の理解度（戦術理解度）に競技に対する考える力が及ぼす影響について検討した。</p> <p>共著者：鮫嶋優樹、杉浦宏季、碓麻菜、大槻茂久 担当部分：筆頭研究者として、実験計画から論文作成まで、全てにおいて中心的に活動。</p>
<p>The impact of changes in the ability to convey information and to make decisions among women soccer players.</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年9月</p>	<p>American Journal of Applied Psychology, Vol. 10(1) 7-12. 2022</p>	<p>先行研究によって、戦術理解度が高い選手は、そうでない選手に比べ、スポーツ論理力における「情報伝達力」および「判断力」が優れることが明らかとなった。本研究では、指導者の用いる集団戦術に対する理解度が向上した群とそうでない群の「情報伝達力」および「判断力」の変化率について群間差を検討した。</p> <p>共著者：鮫嶋優樹、杉浦宏季、大槻茂久 担当部分：筆頭研究者として、実験計画から論文作成まで、全てにおいて中心的に活動。</p>
<p>Levels of awareness among school teachers regarding female athletes and nutritional science</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年8月</p>	<p>World Journal of Nutrition and Health 9(1) pp.1 - 6. 2021</p>	<p>本研究では、管理栄養士、保健体育科教員、およびその他教科の教員を対象に女性アスリートの三主徴と栄養学に関する知識の群間差を検討した結果、月経に関して、保健体育科教員は管理栄養士と同等の知識を有している。しかし、肥満と痩せ。栄養学、食行動、エネルギー、および骨に関して、保健体育科教員を含めた学校教員は管理栄養士よりも知識は乏しいことが明らかにされた。</p> <p>共著者：碓麻菜、杉浦宏季、鮫嶋優樹、山本銀平、宗倉啓 担当部分：共同研究につき本人担当部分の抽出不可。</p>
<p>女子サッカー選手における戦術理解度向上に有効な要因の検討（博士論文）</p>	<p>単著</p>	<p>令和5年3月</p>	<p>福井工業大学</p>	<p>本研究は、女子サッカー選手を対象に、指導者の戦術理解度に影響を及ぼす要因について検討することを目的とした。調査の結果、女子サッカーにおいて、指導者の戦術に対する理解度が劣る選手は、試合の流れを素早く把握するための判断力やチームメイトと考えを共有するための情報伝達力が劣り、前述の両能力あるいはいずれかの能力が向上した者は、指導者の戦術理解度が向上する」ことが示唆された。</p>

<p>(その他) スポーツ論理力の変容過程-大学 女子サッカー選手に対する心理的サポートを通して</p>	<p>単著</p>	<p>平成29年3月</p>	<p>第30回記念大会 九州スポーツ心理学会、ポスター発表</p>	<p>サッカーの勝敗においては技術の他に状況判断も影響する。後者にはスポーツ論理力が関与すると考えられており、選手個々の判断や監督の戦術に対する理解が重要である。本研究では、監督の戦術理解と関連のある要因をスポーツ論理力の観点から検討した。調査には、映像課題を用いた独自の方法を採用し、戦術理解度を評価した。上記の得点を基に対象者を3群に分類し、スポーツ論理力評価尺度の各項目の群間差を調査した。</p> <p>共著者：鮫嶋優樹、大槻茂久、高妻容一</p>
<p>福井しあわせ元気国体における福井県代表選手に対する心理的サポートの報告</p>	<p>単著</p>	<p>平成31年2月</p>	<p>福井県スポーツ医・科学研究報告書2018</p>	<p>国民体育大会第73回大会、福井国体が開催された。開催県である福井県は、総合優勝(天皇杯・皇后杯の獲得)を果たすことを目的に選手に対する競技力向上強化事業を実施した。福井県スポーツ医・科学委員会:心理部会としては、複数競技団体に対して実力発揮に向けたメンタルサポートを実施した。今回は、報告者が心理サポートを担当した5競技に対するメンタルトレーニング及び心理的サポートについて報告した。</p>
<p>福井県国体候補選手に関する心理面の一考察 心理アンケートの調査結果をもとに</p>	<p>単著</p>	<p>令和1年11月</p>	<p>第8回福井県スポーツ医・科学研究大会 指定演題</p>	<p>2018年福井しあわせ元気国体において、専門家が帯同した8競技団体では、選手や指導者より継続的なサポートの依頼の声があがっている。これらの報告から継続的サポート及び、新規でサポートを必要としている競技団体の抽出を狙いとして、心理アンケートを実施した。本発表では、アンケート調査の結果をまとめ、国体候補選手への今後のサポートのあり方について報告した。</p>
<p>大学女子サッカー部におけるチームレベルと戦術理解の関連</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年3月</p>	<p>第20回日本体育測定評価学会口頭発表</p>	<p>本研究の目的は、監督の戦術に対する理解度をチームのレベル別に比較することであった。調査は、関東大学1部リーグに所属する女子サッカー部の部員66名を対象とした。リーグ戦の1試合を撮影し、監督が今後の課題と捉えた14局面を選択した。各局面において、3つの選択肢を設け、監督の戦術に近い順に3点、2点、1点を付与した。評価変数は総合得点とし、チームレベル(トップ、セカンド、サード)の群間差について検討した。</p> <p>共著者：鮫嶋優樹、杉浦宏季、碓麻菜、後藤篤志、大槻茂久 担当部分：筆頭研究者として、実験計画から論文作成まで、全てにおいて中心的に活動。</p>

<p>保健体育科教員とその他科目の教員における栄養学に関する知識の違い</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年3月</p>	<p>第20回日本体育測定評価学会口頭発表</p>	<p>発育発達段階である中学生および高校生では、長時間または、高強度の部活動によるオーバートレーニングや摂取エネルギー不足が懸念されている。本研究は、有識者および学校教員を対象にFATやそれに関連する知識の認識度を比較することを目的とした。対象者は、管理栄養士60名、保健体育科教員131名、およびその他教科の教員116名であり、FATに関連する知識12項目について、3件法（正しい、正しくない、不明）で回答を求めた。 共著者：碓麻菜、杉浦宏季、<u>鮫嶋優樹</u>、宗倉啓 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可。</p>
<p>女子サッカー選手におけるスポーツ論理力と戦術理解の関連</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年3月</p>	<p>九州スポーツ心理学会第35回大会、フラッシュトーク（オンライン発表）</p>	<p>サッカーの勝敗においては技術の他に状況判断も影響する。後者にはスポーツ論理力が関与すると考えられており、選手個々の判断や監督の戦術に対する理解が重要である。本研究では、監督の戦術理解と関連のある要因をスポーツ論理力の観点から検討した。調査には、映像課題を用いた独自の方法を採用し、戦術理解度を評価した。上記の得点を基に対象者を3群に分類し、スポーツ論理力評価尺度の各項目の群間差を調査した。 共著者：<u>鮫嶋優樹</u>、杉浦宏季、碓麻菜 担当部分：筆頭研究者として、実験計画から論文作成まで、全てにおいて中心的に活動。</p>
<p>管理栄養士と学校教員における女性アスリートの健康問題に関する知識の違い</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年8月</p>	<p>日本スポーツ栄養学会第7回大会</p>	<p>クラブ活動を担当する中学校や高等学校の教員は、生徒の健全な発育発達や競技力向上のために食事に関するアドバイスを実施することがある。本研究では、クラブ活動を担当する学校教員を対象に、食生活に関するアドバイスの経験の有無別に、栄養学に関する認識度および情報の収集方法を明らかにすることを目的とした。対象者は学校教員223名であり、中学校73名、高等学校141名、および特別支援学校9名であった。 共著者：碓麻菜、杉浦宏季、<u>鮫嶋優樹</u>、宗倉啓 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可</p>
<p>ホッケー少年男子チームに対するメンタルサポートの実践報告</p>	<p>単著</p>	<p>令和6年12月</p>	<p>第11回福井県スポーツ医・科学研究大会 指定演題</p>	<p>フィールドホッケー競技は、地域（朝日町・越前町）に根差したお家芸競技の1つとして、福井県のスポーツを支えており、県としては、国体（国スポ）での継続的な上位入賞を目指して、発掘・育成・強化活動に力を入れている。本発表では、佐賀国民スポーツ大会優勝に向けて実施した少年男女種別に対するメンタルサポートの事例について紹介した。</p>